

## 交換留学(派遣) 帰国報告書

あなたの情報(本報告書を閲覧する際には、あなたの氏名、学籍番号、メールアドレスは公開されません)	
留学先大学:	西オーストラリア大学
留学先での所属学部・研究科:	Enivornmetal Science
留学先での在籍身分:	Undergraduate
留学期間:	11か月
神戸大学での所属学部/研究科:	農学研究科
学年(出発時):	修士1回
帰国日:	2019/6/25
本報告書記入日:	2019/7/24



1. 留学先大学について		
1-1	学年開始月日:	7月30日
	学年終了月日:	6月14日
	学期:	① 7月30日～12月14日
		② 3月25日～6月14日
	③ 月 日～ 月 日	
	④ 月 日～ 月 日	
1-2	留学先大学の特長、人気のある分野等について記入ください。	農学、環境学
1-3	留学先大学のサポートについて記入ください。	
	語学面でのサポート:	HUMAというAcademic writing、Englishの授業。StudySmarterという英語の文法、Speaking練習の授業
	勉学面でのサポート:	図書館での質問受け
	精神面でのサポート:	Mentalの相談所みたいのがあったはず
	住居・生活面でのサポート:	寮にジムのフリーアクセス、掃除、現地の生徒との交流会
	課外活動のサポート:	部活の新歓祭があった
1-4	近況報告書提出後に、履修した授業について記入してください。	<a href="#">クリックで別シートへ</a>
1-5	神戸大学の所属学部・研究科にて「単位認定」を申請する予定ですか?	はい

2. 住居について		
2-1	住居についてアドバイスを含め自由に記入してください。(気を付けること等)	寮は人気なので募集開始後に直ぐに申し込むべき。シェアハウスは視察できるのでした方がよい。

3. 生活について		
3-1	インターネット接続環境について	
	住居内のインターネット接続可否、プロバイダー、料金等について記入してください。大学内のインターネット接続可否(wi-fi)等について記入してください。	Unihallという寮で、大学と同じWifiを使う。部屋によって弱かったり、繋がらない。有線ケーブルでつなげることもあった。Wifiが問題なく使える。
3-2	医療について	
	留学中に病院に通いましたか。医療費等について記入してください。また、健康管理や衛生面について特に注意すべき点について教えてください。	通っていない。大学の中や近くに病院があるので何かあればすぐに行ける。
3-3	銀行口座等について	
	留学先でお金を引き出す為にどんな準備・手続きをしましたか。(現地口座開設、キャッシュパスポート等)	SONY銀行という国際銀行を開設してそこからATMで下ろしていた、この銀行は口座内でAUDに換金可能。ANZ銀行を開設してAUDを使っていた、デビットで即日引き落とし、友達へのBank transfer(送金)も無料。

4. 経費について(奨学金、留学費用)		
4-1	奨学金を受給していた場合、奨学金名(財団名等):	JASSO奨学金
	支給額(円/月):	7万
	その他(渡航費等の支給):	
4-2	留学期間を通して必要だった費用を記入してください。(概算で結構ですので、円価で記入してください。)	
	航空運賃:	15万 円
	住居費:	(月額) 12万 円 × (留学月数) 11 ヵ月 = 132万 円
	食費:	(月額) 3万 円 × (留学月数) 11 ヵ月 = 33万 円
	保険料:	10万 円
	その他:	100万 円
	合計(留学期間全体の費用):	300万 円

5. 異文化体験について		
5-1	<p>留学先の文化・社会(習慣の違い等)について記入してください。</p> <p>大学外の現地の人々と、どの程度コンタクトを持ちましたか。</p> <p>課外活動(ボランティア、インターンシップ、アルバイト等)はしましたか。</p> <p>留学先の「町」についてコメントがあれば、記入してください。(安全性、外国人への態度等)</p>	<p>平日は勉強に集中して、土日に遊ぶとはっきりしている。シャワー朝の人も。</p> <p>食事の際は友達と食べ、夕食後は一緒に勉強したり遊んだりすることも。土日は出かけることが多かった</p> <p>4回ほどボランティアをした。環境保護活動を含む。インターンシップは夏休み以降7か月間、有給で専門学校で働いた。1か月間日本レストランでバイトを日本と変わらないほど安全な印象。事件的なものが起こったことを聞いたことがない。スーパーとかは5時で閉まる。</p>

6. 就職活動について		
6-1	<p>留学期間中に就職活動をしましたか。就職活動をした場合、どんなことをしたか教えてください。</p>	<p>していない。</p>

7. アドバイス、振り返り		
7-1	<p>現地で参考となった留学先国の情報(出版物、ホームページ)を記入してください。</p>	<p>地球の歩き方</p>
7-2	<p>現地では手に入らない物、日本から持参すると良いと思われるものがあれば、記入してください。</p>	<p>筆記用具、ノート、折り畳み傘、爪切り、洗濯道具</p>
7-3	<p>留学することによって得られたことについて記入してください。(語学力の向上、キャリアパスの明確化、異文化理解等)</p> <p>語学力について、差し支えの無い範囲で、留学前と帰国後の客観的な指標を教えてください。</p>	<p>英語力の向上、特にspeakingとlistening、多文化理解、1人暮らしの家事、積極性</p> <p>留学前:( IELTS ) 6.0 点 → 帰国後:( ) 点</p>
7-4	<p>振り返ってみて、何が最大のトラブルでしたか。</p>	<p>初めのころは何を言っているか分からず、会話に参加できなかった。</p>
7-5	<p>留学前、留学期間を通じて、神戸大学のあなたへのサポートは適切でしたか。神戸大学への要望があれば記入してください。</p>	<p>問題なかったです、ありがとうございました。</p>
7-6	<p>本留学プログラムを後輩に薦めますか。薦める場合・薦めない場合ともに、理由を記入してください。</p>	<p>薦める。世界中の友達ができる。英語論文を読むのに慣れる。積極性・自主性が身に付く。楽しい！！</p>
7-7	<p>留学全体を振り返って、以下の質問に答えてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・留学先大学の授業の「質」(内容、レベル等)に満足しましたか</li> <li>・留学先大学の学生サービスに満足しましたか</li> <li>・留学先の住み心地(安全性等)に満足しましたか</li> <li>・住居の「質」(広さ、料金等)に満足しましたか</li> <li>・全体として留学に係る費用は安かったと思い、満足しましたか</li> <li>・神戸大学の留学に係るサポートに満足しましたか</li> <li>・留学全体の総合的な評価</li> </ul>	<p>(5段階評価、5が最も高い評価、1が最も低い評価)</p> <p>5</p> <p>5</p> <p>4</p> <p>3</p> <p>1</p> <p>5</p> <p>4</p>

## 8. その他感想、後輩へのメッセージ等を自由に記載してください。(800字～)

想像していた以上に夢のような1年間でした、今でも自分がオーストラリアに1年間も住んでいたことが信じられないくらいです。パースはこのオーストラリアの西側に位置している大学でシドニーなどの大都市から離れていることから陸の孤島と呼ばれています。メインストリートもそれほどごちゃごちゃしておらず静かで生活しやすい環境でした。自然景観を意識しているような都市で多くの高木の樹木が植わっていて、公園も多くあり、芝生の管理がしっかりとなされていました。大学も自然が広がっており、様々な種類の鳥類がそこらじゅうを飛び回っていて一度バードウォッチングの授業があり数多くの鳥と遭遇しました。夜にはウサギが出没したり(これは実験ウサギが逃げ出した説が浮上)や大学の横に川が流れていますが、その川沿いで水質調査をしている際にイルカが前を飛びながら泳いでいったこともあります。オーストラリアはかなり移民の多い国で中華系が特に多いです。そのほかにも東南アジアやブラジル系、インド系とヨーロッパ方面からも多くの移民がいる印象でした。人種差別はそれほど個人的には感じませんでした。一度、横を走り去った車に生卵を投げられたことはありましたが、原因は不明です。

次に受けた7科目を簡単に紹介します。まず、前半について、zoology 動物学の授業を受けました。Climate change, genetic diversity, fisheries, Animal extinction, Marine conservation systematicsなどが主なトピックでした。フィールドワークとして、あるサイトの野生動物のpopulationを調べるというものがありました。作成した餌(ピーナッツバターとフレークを混ぜたもの)と利用して、箱型のトラップを仕掛けて、ボッサムとクエンダと呼ばれるネズミのような動物のpopulationを推測しました。他にはBiologyの授業も受講しました。1回生の必須授業だったので、基本的な細胞などの話が多かったのですが、論文を書いてくださいと言ったような課題が出ました。実際に発行をするようなもので、内容としてはclimate watchと呼ばれるアプリを用いました。このアプリは市民が様々な動植物を観察した際にその情報をネットワーク中に登録するというもので、Citizen Scienceと呼ばれています。この情報を元に気候変動が動植物の生息域を変化させていないか調べるといった内容で、グループでミニ論文のようなものを作りました。UWAでは研究室に入る前から論文を読んだり、書いたりする機会があり研究室に入ってから論文を書く抵抗を減らす狙いがあるようでした。また、一つ建築学の授業を履修しました。目的はどの程度、樹木や自然環境が重視されているかをみるためでした。取っていた授業がlandscape系の授業であったこともあり、植生調査や動物の生息などについても調べることがありました。また、高木の影を活かした設計や、土壌のろ過システムを意識した建物作りなど環境との調和を図るような設計を求められました。最終課題ではこのような3dモデルを作る必要があり、なかなか難しかったです。また、HUMA1901というnonnative対象のAcademic writingやreading、プレゼンテーションの授業を受けていました。後期はEnvironmental Scienceの授業を3つとっていました。1つはenvironmental Scienceの基礎を幅広く学ぶもので、内容はEcosystemやごみ問題、空気水質汚染などでした。フリー課題では、植物や樹木が大気汚染に対して効果があるものの、大気汚染によって被害を受けるという内容の発表を行いました。授業は毎回ゲストレクチャーを環境に関する機関から呼んで講演をしてもらうというシステムでした。2つ目の授業はClimate changeに特化したunitでした。気候変化をもたらす気象原因や人為的な原因について深く学びました。年輪年代学という分野の勉強もし、年輪から当時の状況を推測するような課題も行いました。もう一つはEnvironmental Assessmentという授業を取りました。この授業が一番大変で、はじめに川と工業地帯の間の湿地地帯で水や土のサンプルを行い、その後さまざまな方法で濃度などや化学特性を抽出後、R Studioという解析ソフトで傾向を見るのですが、最終課題が30項目以上の濃度とか化学特性の表が渡されて、何かわかることを解析して見つけてくださいというもので、論文探したり、解析したりしていたら結局80時間くらいこの課題にかかりました。ただ、非常にやりがいがありました。

12月からインターナショナルの生徒向けの専門学校でインターンシップを始めました。業務内容は主に生徒の対応、電話対応、ペーパーワークや合格証書を発行する作業でした。英語を話す良い練習になり、生徒もスタッフの方もとても楽しんで仕事を行っていることが印象的でした。ただ、生徒は色々な国から来ていて授業に来ない生徒がいたり、学校をやめたい理由を異常なほどヒロインぶってドラマチックに説明してきたり、授業料の金額をだましてきたりと日本では想定されないようなことがたくさん起こりました。また、社員のひとか先生ものんびりの人が多く、期限までに書類が来なかったり、仕事もまだ終わってないのに飲酒し始めたりと色々とおどろくことはありましたが、成長はできたと感じています。

旅行にも行きました。計40日間行って、毎回レンタカーを借りてオーストラリアと感じるようなまっすぐな赤土の道をドライブしたのは最高でした。西オーストラリアは東オーストラリアよりも壮大な自然が残っているのでロングドライブの後の絶景には何度も感動しました。

英語に関して、なかなか初めころは会話にも関わらずつらい思いをしていましたが、積極的に話しかけるように努めているうちにたくさんの友達ができました。毎日、友達と食事をして、勉強したり、飲みに行ったり、踊ったり、ゲームしたり、映画を見たり本当にほとんどの時間を友達と過ごしていました。なので、英語に常に触れ、話すような機会は多く作れました。後半からはだんだん、何を言っているかが分かるようになり、グループで話している際でも話ができるようになりました。友達にもよく喋れるようになったねと言われる自信が付きました。英語で話すようになってくると初めころやってしまっていた日本語からの翻訳がなくなり、すべてを英語で考えるようになっていました。

留学に行って、色々な国の価値観、文化を持っている人と出会い、世界中に友達ができました。日本では考えられないことがたくさん起こったり、時には友達と衝突することも何度もありました。そんな中で、自分の考えの幅も広がり、心も広くなったように感じます。迷っているなら絶対に行ってください。このような色々な悩みや不安を抱えている時期だからこそ学べる機会がたくさんあります。日本がいかに素晴らしい国かということも感じることができます。世界は広くて色々な人がいるのに、日本に閉じこもってはいけません。飛び出してみてください。時には辛い、不安になるようなこともあります。楽しい最高の留学が待っています。

## 1-4 近況報告書提出後に、履修した授業について記入してください。

No.	コース名	教授名	時間数／週	留学先での単位数	授業での使用言語	履修している学生数	予習、復習、テスト等の成績評価についてアドバイスも含めて教えてください
1	Environmental Assessment	Andrew Rate	6hrs	6	English	40	R Studioという解析ソフトを使うため慣れていないと大変。
2	Environmental Science and Technology	Inga Carr	4hrs	6	English	100	結構聞き取りにくい、毎週ゲストレクチャーあり。与えられたReadingをすべて読むとかなりの量がある
3	The Climate System	Jason Beringer	4hrs	6	English	80	他分野の学生向けの授業でもあるらしく、比較的簡単。Final Examあり。
4							
5							
6							

## ・授業(カリキュラム等)について クラスのサイズ、成績評価、現地学生の取り組み等

半分からのUnitがFinal Examありで他半分は大きな課題がでる。すべてFinal Examのものを選ぶと日本人には負担が大きい気がする。予習をしていないと授業についていくのが大変なので、授業前にスライドを一通り見ているとわかりやすい。復習に関してはレクチャーがレコーディングされているのでレクチャーを見直すことができる。速度調整も可能。よく課題が出て、一番多いのは論文を自分でいくつか探してそれをまとめるもの。現地学生は積極的にメモを取ったり、質問をしたりで集中している学生ばかり。レクチャーはレコーディングされているので来ない学生もいる。